

## **(4) 平成20年度決算の状況**

## 水道事業会計

### (1) 総括事項

本市の水道事業は、給水人口の減少や景気の低迷の影響及び節水意識の定着により、使用水量が平成6年をピークに年々減少していき、今後も低下傾向にあります。

このような状況下で、安全で良質な水の安定供給を図りながら、歳出面においては経費の節減等による経営の合理化に努める一方、歳入面においても、積極的な収納確保に努めた結果、今年度も利益を確保することが出来ました。

また、今後の課題として老朽化した施設の改築更新が必要となるため、計画的な施設改良に取り組んでまいります。

### (2) 営業

本年度の有収水量は、3,674,693 $\text{m}^3$ （1日平均10,068 $\text{m}^3$ ）で、前年度と比較して116,208 $\text{m}^3$ （3.1%）の減少となりました。

### (3) 建設改良（消費税及び地方消費税込み）

本年度は、施設の改良工事等に総額で124,022,778円（うち消費税及び地方消費税5,905,810円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

・ 玖波・大竹・立戸配水池外壁塗装改修工事	12,891,900円
・ 防鹿水源地浄水池内面防水塗装改修工事	14,301,000円
・ 浄水処理施設実施設計及び大竹市上水道変更認可作成業務	15,952,650円
・ 立戸二・三丁目地内配水管改良工事	16,826,250円
・ 御堂原地区上水道配水管整備工事	29,610,000円

### (4) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成20年度の収益的収支は、収入総額536,811,374円、支出総額489,526,922円で、差引き47,284,452円の純利益となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	536,811,374円
（消費税及び地方消費税抜き）	支出総額	489,526,922円
	差引利益額	47,284,452円

資本的収支	収入総額	99,469,080円
（消費税及び地方消費税込み）	支出総額	179,255,366円
	差引不足額	79,786,286円

資本的収支の不足額79,786,286円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額4,685,040円、当年度分損益勘定留保資金75,101,246円で補てんしました。

## 工業用水道事業会計

### (1) 総括事項

第2期工業用水道事業の企業債償還利息及び減価償却費が財政を大きく圧迫していましたが、効率的な事業運営や追加の給水契約を締結したことで、財政面の改善が進み収支が好転してきました。

さらには、当面の資金不足を解消するため、新たな起債を発行することにより起債償還を平準化し、経営の安定化を図っています。

今後も、安定した水の供給確保を行い、本市の産業経済の活性化に寄与するとともに、経営の健全化に努めてまいります。

### (2) 営業

本年度の有収水量は、14,995,588<sup>m</sup><sup>3</sup>（1日平均 41,084<sup>m</sup><sup>3</sup>）で、前年度と比較して736,305<sup>m</sup><sup>3</sup>（4.7%）の減少となりました。

### (3) 建設改良

本年度は、施設の改良工事等に総額で7,350,000円（うち消費税及び地方消費税350,000円）を支出しました。

### (4) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成20年度の収益的収支は、収入総額486,278,525円、支出総額524,976,976円で、差引き38,698,451円の純損失となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	486,278,525円
(消費税及び地方消費税抜き)	支出総額	524,976,976円
	差引不足額	38,698,451円
資本的収支	収入総額	203,016,000円
(消費税及び地方消費税込み)	支出総額	336,706,079円
	差引不足額	133,690,079円

資本的収支の不足額133,690,079円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額350,000円、過年度分損益勘定留保資金48,357,283円、当年度分損益勘定留保資金84,982,796円で補てんしました。

## 公共下水道事業会計

### (1) 総括事項

公共下水道は安心して快適な生活を営むうえで必要不可欠であり、生活環境の改善や公共用水域の水質保全などを図りながら事業運営を行っています。

本市の下水道整備は地方の小都市としては比較的早くから事業展開を行ってきたことで、現在の公共下水道事業は建設段階から維持管理段階へ移行しています。

その半面で、施設の老朽化による改築更新費の増大や下水道使用料が年々減少していることで、下水道経営は厳しい状況となっておりますが、経費の削減や効率的な運営に努めた結果、今年度も利益を確保することができました。

今後も安定した事業経営を行うために、さらなる経営状況の改善に努めてまいります。

### (2) 営業

本年度の有収水量は、3,263,071 $\text{m}^3$ （1日平均 8,940 $\text{m}^3$ ）、和木町からの受入水量は1,523,590 $\text{m}^3$ （1日平均 4,174 $\text{m}^3$ ）になりました。

本市では、区域内水洗化率99.6%を達成し人口普及率も93.6%と高い水準を維持しています。

### (3) 建設改良（消費税及び地方消費税込み）

本年度は、施設の改良工事費に総額で 272,164,392円（うち消費税及び地方消費税 12,130,752円）を支出しました。

本年度に実施した主な工事は、以下のとおりです。

・大竹下水処理場電気設備改築更新工事(その1)	77,700,000円
・合流改善雨水滞水池設置(杭基礎)工事	70,875,000円
・大竹下水処理場電気設備改築更新工事(その2)	58,590,000円

### (4) 経理の状況（消費税及び地方消費税抜き）

平成20年度の収益的収支は、収入総額 813,328,063円、支出総額 774,801,215円で、差引き 38,526,848円の純利益となりました。

当年度における収支の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	813,328,063円
(消費税及び地方消費税抜き)	支出総額	774,801,215円
	差引利益額	38,526,848円

資本的収支	収入総額	406,084,990円
(消費税及び地方消費税込み)	支出総額	606,486,668円
	差引不足額	200,401,678円

資本的収支の不足額 200,401,678円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額12,129,695円、過年度分損益勘定留保資金 21,211,215円、当年度分損益勘定留保資金167,060,768円で補てんしました。